

# 2002 院生ホープ

## ③工学系研究科

平岡卓爾さんは、工学部物理工学科に所属する4年生。創設間もない研究室の中で、現在取り組んでいる課題は、スクイッド光の生成だ。

スクイッド光とは、通常光の状態であるレーザー光と対比される光の量子状態のことだ。実はこのスクイッド光が、平岡さんのいる古澤研究室のテーマである。量子テレポーテーションの実現に大きく関わっていることが知られている。よって、この共通課題へ寄与することが、平岡さんの研究の主眼といえる。

「わかっているようで、わかっていない学問」というのが、平岡さんの考える量子力学の現在像だ。それ抜きにして工学は成り立たないと言われながら、実のところ本当に理解されている量子テレポーテーションの実現という、最終的なゴールははっきり掲げられている一方、その研究はまだ長い道のりを残していると言えそうだ。「このままでは

理論的に確立された部分の追実験が主でしたが、ここから先は新領域に踏み込むこととなります。壁に突き当たることも覚悟しつつ、精進していきたいです」と決意を語る。

修士進学以降の身の振り方は決まっていないが、やはりこの分野に携わってきたい思いは強いという。

「将来の夢を端的に表すなら、何らかの分野で世界一になるということでしょうか。希望としては、今の路線の延長上でそれが果たされることを望んでいます。夢の実現に向けた、このほかにも強い思いが感じられる。」

(斉藤 昂太)

指導教員 工学系研究科物理工学科・古澤明助教授の話

## 量子力学で 世界一になりたい

量子テレポーテーションの実現という、最終的なゴールははっきり掲げられている一方、その研究はまだ長い道のりを残していると言えそうだ。「このままでは



平岡卓爾

（工学系研究科）  
士課程進学予定  
は語る。「大  
学に入り、駒